

令和6年10月1日

総務大臣 殿

広島県三原市宮沖五丁目8番15号
株式会社FMみはら
代表取締役 後藤 和之

放送番組審議会議事録の提出について

標記について、放送法施行令第8条第1項第3号の規定により、下記の書類を添えて提出します。

記

- ・ 番組審議会議事録（第35回、令和6年9月26日開催）

《別紙》

1. 開催年月日 令和6年9月26日

2. 開催場所 三原駅前スペースキオラスクエア内サテラス

3. 委員出席
 委員総数 6名
 出席委員数 3名

4. 議題

- ・局からの近況報告
- ・番組審議について

5 議事の概要

6 審議内容

(1) 開会宣言

放送事業者からの開会宣言

(2) 局からの報告

「8月30日台風接近に伴う臨時放送」について

事務局より以下の通り報告があった。

事務局「FMみはらでは警戒レベルに合わせて対応を変えている。警戒レベル1、2の段階は通常放送を継続。警戒レベル3『高齢者等避難』以上になると災害情報を中心にした臨時放送に切り替えている。今回は、8月29日に警戒レベル3『高齢者等避難』が夕方5時に発令し臨時放送に切り替えた。警戒レベル3は、翌日30日夜7時に解除になった。今回委員の皆様にご覧いただいた部分は、30日午後2時からの放送である。警戒レベル3は避難所が出来ている段階なので、避難所の告知を行った。避難所への避難が難しい方は、各家庭内の安全な場所で待機することを促すアナウンスを行った。これまでの臨時放送は、音楽をクラシックに変更し、災害情報以外、余計な情報を入れないきっちりとした放送を心掛けていた。しかし、今回の臨時放送は台風の進捗が非常にゆっくりであり、被害予想が難しかったことから、以前よりリラックスした、通常放送の延長の中で災害情報を流していくことを心掛けた。今回の様に警戒レベル3発令から長期化することがあり、以前のようにきっちり話し、音楽がクラシックしか流れないとすると、視聴者が離れる。30日15時からの『藤田博之のみはら情報局ラジオ』も台風中の放送であったが、普段よりはトーンを抑えつつも、通常放送に災害情報を加え放送する形をとった。

災害の状況にもよるが、今回は台風の動きがゆっくりで先が読みにくく、警戒レベル3が長時間続いた為、このような放送を行った。」

A 氏「放送に対して非常に気を使っていると感じた。」

- 事務局「西日本豪雨災害の時、放送した音楽に対してクレームが出た。配慮が必要だと感じている。」
- A 氏「警戒レベル5, 6くらいになるとどのような放送になるのか？」
- 事務局「避難所情報が中心になる。ただ、警戒レベル5, 6でも長期化してくると、今回のような少しゆっくりとした放送に切り替えていかないと、聞くほうも持たないのではないかと感じている。ただ、音楽のチョイスは気を付けていきたい。」
- B 氏「レベル5になるとすでに被害が起こっている。命を守る行動を呼びかける。」
- 事務局「その後、落ち着いてくると給水所等の情報を発信する。警戒レベルが上がっていく段階が一番気を遣う。3から4, 4から5となる時は、MCATの放送で各地域の河川カメラを見ながら状況を伝えていく。」
- B 氏「災害状況はすぐに変化するので、発信する側は難しい。」
- A 氏「災害がないに越したことはない。」
- 事務局「今回の台風は過去最大級という事前情報だったが、だんだん弱まった。ただ、動きが非常に遅く災害情報を発信する時間が長くなったので、気をつかった放送になった。その中で、リスナーに聞いてもらえる放送を心掛けている。」

第一号議案「番組審議について」

番組名：三原やっさ祭り2024 やっさ花火フェスタ生中継

8月11日放送した特別番組

三原やっさ祭り2024 やっさ花火フェスタの様子を花火の解説を交え、会場から生中継放送を行う内容。

パーソナリティ：小川瑞恵、原田真弓

事務局「過去もやっさ花火大会の放送は行ってきた。初年度は、MCATと音源を共有し花火の音のみ放送した。翌年からはMCATの花火映像を見ながら、リスナーからのメールを読み、花火を見ながら色々な告知を行った。また、会場での注意点、交通情報、駐車場状況をアナウンスした。今年は花火会場にスタジオを設けて、そこから花火の状況を伝える形をとった。パーソナリティが2名つき、現場感を伝える放送にした。また、実行委員長の福戸山様をゲストに招き、開催前のあいさつ、打ち上げ前のカウントダウンを行って頂いた。花火を見ながらの放送だったので、現場の臨場感が伝わる放送を心掛けた。その中で、中継ソフトに大きい音を抑える機能がついていた為、途中で音が途切れ、聞きにくい場面があった。課題も見つかった。

今回は初めての試みで、ラジオリスナーと会場の観客、2つの方面に対して放送を行った為、パーソナリティはどちらに対して発信をするのか難しい部分があった。ただ、クイズ花火の答えを発信したり、全国から取り寄せた花火を解説したり、各セクションで例年と違う放送ができたのではないかと。以上のことを踏まえ、来年以降の参考にしていきたい。ご意見を頂きたい。」

- C 氏「今回のやっさ花火フェスタは迷子のお知らせなど緊急報告の可能性も考えながら、5分おきに各セクション空き時間を設けていた。その間に花火の紹介をした。その放送があるとないのでは花火全体の見え方や締めきり方が違う。一緒にできて凄くよかった。」

D 氏「ラジオで花火を伝えるのは難しい。」

事務局「ラジオのみ聞いている人がどうなのか、という疑問が残る。」

C 氏「今年はいろいろなところから花火が見えた。ラジオを聴きながら花火を見た人は多かったのではないか。」

事務局「来年も花火の放送を行いたいと思っている。また今年、FMみはらのサイマル放送につながるQRコードがプリントされたうちわを配布したが、配布が花火フェスタの直前になってしまった。来年は事前に余裕をもって多くの方に配りたい。」

7 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

- ・必要にあわせて今後の審議会の中で対応したことについて発表する。

8 審議機関の答申又は意見の概要の公表

公表の方法：事務所への備置き ホームページでの公開

公表の内容：議題、議事の概要および審議内容

公表年月日：令和6年9月30日

9 その他参考事項